

## 安全データシート

改訂日: 2020年10月8日

1. 化学品及び会社情報 化学品の名称(製品名) 会社名 住所 電話番号	硝酸鉄(Ⅲ)九水和物 米山薬品工業株式会社 大阪市中央区道修町2丁目3番11号 (06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島) CB2000
整理番号	
2. 危険有害性の要約 GHS分類 物理化学的危険性 健康に対する有害性	酸化性固体: 区分3 急性毒性(経口): 区分5 皮膚腐食性・刺激性: 区分1 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性: 区分1 特定標的臓器・全身毒性: 区分3(気道刺激性) (単回ばく露)
GHSラベル要素 絵表示又はシンボル	
注意喚起語 危険有害性情報	危険 火災助長のおそれ; 酸化性物質 重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷 重篤な眼の損傷 飲み込むと有害のおそれ(経口) 呼吸器への刺激のおそれ
注意書き	【安全対策】 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙 衣類や可燃物から遠ざけること。 可燃物と混合を回避するために予防策をとること。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 取扱い後は手などをよく洗うこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 【応急措置】 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿で休息させること。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に連絡すること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。 汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。 火災の場合、消火するために適切な消火剤を使用すること。 【保管】 容器を密閉して換気の良いところで保管すること。 施錠して保管すること。 【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
3. 組成、成分情報 化学物質・混合物の区別 化学名又は一般名 化学式 化学物質を特定できる一般的な番号 濃度又は濃度範囲(含有率)	化学品 硝酸鉄(Ⅲ)九水和物 $\text{Fe}(\text{NO}_3)_3 \cdot 9\text{H}_2\text{O}$ CAS RN: 7782-61-8 98%以上

官報公示整理番号(化審法/安衛法)	(1)-355
4. 応急措置	
吸入した場合	新鮮な空気にあてる。 呼吸停止の場合は、人工呼吸を行う。 呼吸困難の場合は、酸素吸入を行う。 医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	大量の水で最低15分間洗浄し、汚染した衣服や靴を脱がせる。 医師の診断を受ける。
眼に入った場合	大量の水で最低15分間洗浄する。 医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	水で口をすすぎ、ただちに医師の診断を受ける。 皮膚：皮膚を刺激する(かぶれる、ただれる、発赤する)。 眼：粘膜を刺激する。 経口摂取：有害である。
応急処置をするものの保護 医師に対する特別な注意事項	該当情報なし。 該当情報なし。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	水を用いる。粉末消火剤や泡消火剤を用いてはいけな。二酸化炭素やハロン(R)は限られた効果しかない。
使ってはならない消火剤	該当情報なし。
火災時の措置に関する特有の危険有害性	火災に巻き込まれると燃焼を加速する。 火災に巻き込まれると爆発的に分解するおそれがある。 猛毒の燃焼生成物が発生する。
特有の消火方法	火災区域に適度の距離から大量の水を散水する。 危険でなければ容器を火災の場所から移動する。
消火を行う者の保護	猛毒の燃焼生成物が発生するので作業に際しては保護具を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際には適切な保護具を着用し、風上から作業して、風下の人を退避させる。 自給式呼吸器、ゴム長靴および厚手ゴム手袋を着用する。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材	環境中に放出してはならない。 掃き集め、袋に入れ、廃棄にそなえて保管する。
二次災害の防止策	当該物質を完全に移した後、漏出区域を換気し、洗う。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 飛散するダスト(粉立ち)を避ける。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策(局所排気、全体排気)	取り扱い場所には局所排気装置を設置する。 作業場近くに手洗等の設備を設ける。
安全取扱い注意事項	吸湿性があるので使用後は容器を密封する。 粉塵またはヒュームの吸入を避ける。 眼、皮膚、衣服への接触を避ける。 長時間または反復の暴露を避ける。
接触回避	取扱後に十分に洗浄する。
保管	強酸化剤、可燃性物質との接触を避ける。
安全な保管条件	吸湿性があるので湿気を避ける。 可燃物、熱源、火花、裸火から遠ざけておく。
安全な容器包装材料	直射日光を避け、冷乾燥場所に密封して保管する。 ポリエチレン
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	TLV-TWA 1mg/m <sup>3</sup> (Feとして)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	呼吸用保護具。

手の保護具	保護手袋。
眼の保護具	安全ゴーグル。
皮膚及び身体の保護具	保護衣。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	結晶
色	うすい紫色
臭い	該当情報なし。
融点・凝固点	47.2°C
沸点、初留点及び沸騰範囲	分解
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	該当情報なし。
分解温度	約100°Cで結晶水を失う。分解温度:125°C
pH	約1.3 (20°C, 100g/L)
溶解度	水に易溶。アルコールに可溶。
n-オクタノール/水分係数	該当情報なし。
蒸気圧	該当情報なし。
密度及び/又は相対密度	1.68g/cm <sup>3</sup> (20°C)
相対ガス密度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
安定性	潮解性があり, 空気中で褐色に変わる。光で退色する。
危険有害反応可能性	加熱すると容易に分解し50°Cで硝酸を発生し、100°Cで酸の半分を失い、赤熱で全部を失う。強熱すると酸化鉄(Ⅲ)になる。
避けるべき条件	日光、熱、湿気、空気
混触危険物質	強酸化剤との接触は不可。
危険有害な分解生成物	酸化窒素、酸化鉄(Ⅲ)
11. 有害性情報	
急性毒性	経口ラット LD <sub>50</sub> 3250mg/kg
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	皮膚を刺激する(かぶれる、ただれる、発赤する)。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	粘膜を刺激する。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	該当情報なし。
生殖細胞変異原性	該当情報なし。
発がん性	該当情報なし。
生殖毒性	該当情報なし。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	蒸気とミストは肺、気道上部を刺激する。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	該当情報なし。
誤えん有害性	該当情報なし。
12. 環境影響情報	
生態毒性	該当情報なし。
残留性・分解性	該当情報なし。
生体蓄積性	該当情報なし。
土壌中の移動性	該当情報なし。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
汚染容器及び包装	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制	
国連番号	1466
品名(国連輸送名)	硝酸第二鉄
国連分類	クラス 5.1(酸性物質)
容器等級	Ⅲ
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。

海上輸送 航空輸送 応急措置指針番号	船舶安全法の規定に従う。 航空法の規定に従う。 140
15. 適用法令 化学物質管理促進法(PRTR法) 毒物及び劇物取締法 労働安全衛生法	指定化学物質に該当しない。 毒物及び劇物に該当しない。 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2）〔鉄水溶性塩〕 施行令別表第1危険物（酸化性の物） 危険物第1類 硝酸塩類 第3種酸化性固体 酸化性物質 酸化性物質 有害物質
消防法 船舶安全法 航空法 水質汚濁法	
16. その他の情報 引用文献	化学品安全管理データブック(化学工業日報社) 緊急時応急措置指針(指針番号140)(日本規格協会) 産業中毒便覧(医歯薬出版) 化学大辞典(共立出版) NITE-CHIRP(製品評価技術基盤機構HP) GESTIS Substance Database MERCK INDEX 14th
その他	記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。